

「AmpC 型 β -ラクタマーゼ過剰産生 Enterobacter cloacae 感染症のリスク因子解析及び抗菌薬使用に関する後方視的検討」

1. 研究の対象

2018年12月1日から2022年5月31日までに細菌培養検査にてエンテロバクター・クロアカが検出された患者さんを対象とします。

2. 研究目的・方法

【目的】

エンテロバクター・クロアカは、入院患者さんや免疫機能が低下した患者さんに感染症を引き起こす腸内細菌科の細菌で、近年、重要な細菌病原体として注目されています。エンテロバクターは AmpC 型 β -ラクタマーゼという抗菌薬を分解する酵素をもともと持っていることが知られており、遺伝子によって酵素の産生量が抑えられていますが、ある抗菌薬の存在によって酵素量が増加する、いわゆる過剰産生の誘導が起こることが知られています。過剰産生を誘導すると、これまで有効だった抗菌薬に対して耐性を持つようになってしまいます。エンテロバクター・クロアカは抗菌薬の使用量の増加とともに、薬剤耐性菌が将来的に問題になることが予想され、AmpC 型 β -ラクタマーゼ産生エンテロバクター・クロアカについて、その疫学やリスク因子を探索することは抗菌薬の経験的治療を選択する上での重要な情報になりうると考えられます。そこで本研究では、AmpC 型 β -ラクタマーゼ産生エンテロバクター・クロアカが検出された患者さんを抽出し、検出リスク因子について検討を行うことを目的としています。また、エンテロバクター・クロアカの治療に使用された抗菌薬の種類、投与日数等と臨床的效果についても検討を行います。

【方法】

エンテロバクター・クロアカが検出された患者さんを対象に、臨床データや抗菌薬の使用について情報を収集します。主要評価項目として AmpC 型 β -ラクタマーゼ産生エンテロバクター・クロアカを検出するリスク因子の探索を設定しています。今回の研究は通常診療で得られた既存情報を用いた観察研究です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

通常診療にて実施する検査の結果をはじめとする記録済臨床データを使用します。患者さんの照合のために使用する情報は登録番号と被験者識別番号のみです。氏名、生年月日、イニシャル等は使用しません。

4. 外部への試料・情報の提供

上述する試料ないし情報の外部への提供に関しては、本研究において行いません。

AmqB-ラビドウイルスエンテロウイルス感染症の予防と治療に関する研究

5. 研究組織

市立吹田市民病院のみで実施する研究であり、企業からの資金提供を受け実施する研究ではありません。

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

研究責任者：市立吹田市民病院 薬剤部 児玉 暁人
〒564-8567 大阪府吹田市岸部新町 5-7
TEL:06-6387-3311

【表式】

研究の目的は、AmqB-ラビドウイルス感染症の予防と治療に関する研究であり、企業からの資金提供を受け実施する研究ではありません。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究の目的・実施の目的

本研究は、AmqB-ラビドウイルス感染症の予防と治療に関する研究であり、企業からの資金提供を受け実施する研究ではありません。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究の目的・実施の目的

本研究は、AmqB-ラビドウイルス感染症の予防と治療に関する研究であり、企業からの資金提供を受け実施する研究ではありません。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。